

新年、おめでとうございます。

この年のあなたの歩みの上に主イエスの恵みと祝福をお祈りいたします。今年もよろしくお祈りいたします。

「平和を造る人々は、幸いである

その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイによる福音書5章9節）

ロシアの横暴なウクライナ侵略、イスラエルのガザ地区への虐殺のような戦闘などに、平和は遠いと残念に思う。自民党の金権まみれの体質に国民不在の政治を悲しく思う。しかし、主権を持つ市民が社会を、日本を、歴史を造る主体だと信じたい。健康が維持され、「9条の会」の末端に関われることに感謝しています。（隆雄）

9月には先輩のお供をして、ニュー・イングランドを訪ね、楽しく有意義な旅をしました。健康、食事に配慮し、鉢植えの花々を楽しみつつ、穏やかに生活しています。（悦子）

2024年 元旦

今年の私たち夫婦の年賀状である。今年は戦争が終わり、無残に殺される人がなくなることを期待したい。そして、日本の政治が抽象的な国や国会議員の身分を守るのではなく、民主主義を守り、国民の生存権を保障する政治に向かうことを切望している。

6年前、定期検診を受けたところ、「悪性リンパ腫」に罹患しているから、即時、入院と言われた。悪性リンパ腫がどんな病気か知らなかったが、血液に関する「癌」であることを理解した。病名を告げられた日、医者に、病気は人間にとって全て「悪性」なので、「悪性リンパ腫」とあえて「悪性」を付けなくてもいいのではないかと聞いたことを覚えている。「リンパ腫」は血液の癌だから、手術による治療はない。入院してから、5日間くらい数本の抗癌剤を打ち、白血球の回復を待ち、自宅に帰る。そしてまた、入院し、抗癌剤を打つ。それを6回繰り返す。放射線治療も受けた。きつい治療であったが、聖書を読み、ホームページを書き続けた。注解書もなく、自分に語りかけるように書くことによって、慰めを受け、治療に耐える勇気を与えられてきた。医者は最善を尽くしてくれた。ある時、医者から「後は祈るだけです」と言われた。私が牧師であることを知ってはいたが、西洋医学で治療している医者から「後は祈るだけです」と言われ、驚いた。しかし、祈りには自信があった。多くの知人、友人から「祈っている」と励ましの言葉を受けていたからである。その祈りによって、「悪性リンパ腫」というイヤな名の病気から癒された。心からの感謝である。5年間は転移が起こる可能性があるからと、半年ごとに検診を受けてきた。その5年が過ぎて、転位はないと解放された。医者は「あれだけの治療に耐えたのですから、90歳までは行くでしょう」と言われた。食道癌、胃癌、リンパ腫と三度乗り越えてきたが、私はどうも癌に好かれているようだ。おさらばしたい。今年の4月に、83歳になる。体と頭の衰えを、日々実感しているが、永らえた命を感謝し、できることを精一杯やりたいと思っている。アクセス数に関わりなく、聖書の注解と考えさせられていることをホームページに書き、「9条の会」の仲間と平和を造ろうと地域の活動に参加している。読書は何よりの楽しみである。一日5000歩を目指し、朝夕近くの公園をウォーキングし、出会う人たちとの会話や、草木、小鳥の観察を楽しんでいる。妻が大きな支えになってくれた。最近、親しい友人たちが亡くなったり、ホームに入居したりして、以前のような会話は閉ざされ、寂しさは増すばかりである。年を重ねることの重さを感じているが、失っていくものを嘆かず、与えられている今を大切に、この年を過ごしていきたいと思っている。